

令和8年度 第23回

「家族のきずな」

エッセイ集



公益財団法人

モロロジー—道德教育財団

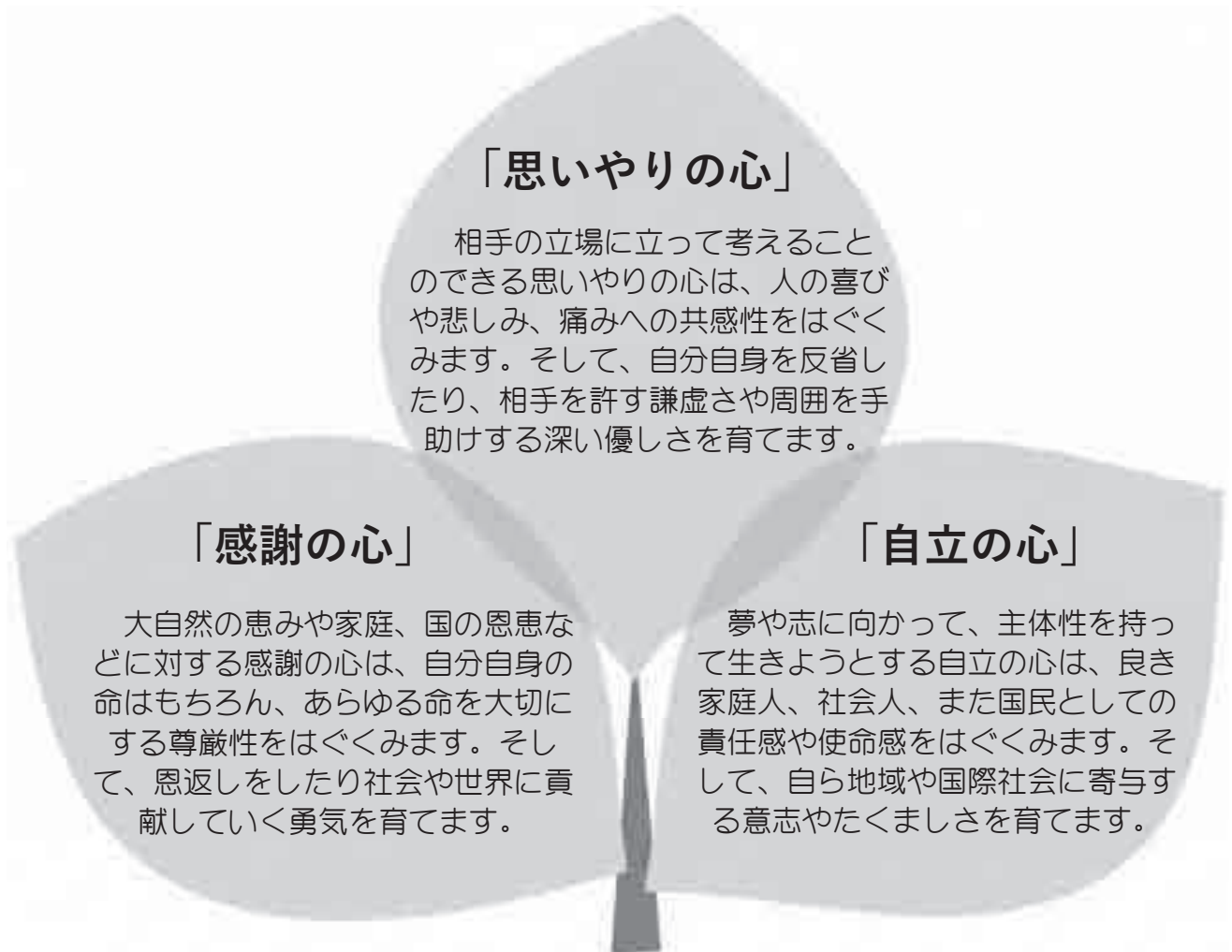
共 催：麗澤大学／麗澤中学・高等学校

後援：千葉県／千葉県教育委員会／柏市／松戸市／柏市教育委員会／松戸市教育委員会／我孫子市教育委員会

鎌ヶ谷市教育委員会／流山市教育委員会／野田市教育委員会／柏市PTA連絡協議会／JCOMマーケティング株式会社 東関東局



「人づくり」による「国づくり」を モラロジー教育では「3つの心」を育てます。



モラロジーとは

モラロジー (morality) は、「道徳」を表すモラル (moral) と「学」を表すロジー (logy) からなる学術名で、「道徳科学」を意味します。日本はもとより世界の倫理道徳の研究をはじめ、人間、社会、自然のあらゆる領域を考察し、人間がよりよく生きるための指針を探求し提示することを目的とした「総合人間学」です。

公益財団法人モラロジー道徳教育財団

モラロジー道徳教育財団は、倫理道徳の研究と社会教育を推進する研究教育団体です。大正 15 (1926) 年の創立以来、「道徳で人と社会を幸せに」という指針のもと社会における諸課題の道徳的解決に資する研究・教育・出版・福祉事業を展開しています。また、日常の活動を通じて SDGs (持続可能な開発目標) の達成に向けて取り組んでいます。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

令和8年度 第23回 「家族のきずな」エッセイ集

目 次

2	ごあいさつ	公益財団法人 モラロジー道德教育財団 理事長 廣池 幹堂
---	-------	---------------------------------

3	講 評	選考委員長 柏市小中学校校長会 会 長 福島 紀和
---	-----	------------------------------

4	入賞・入選作品一覧
---	-----------

6	ご応募いただいた小学校
---	-------------

7	入賞作品
---	------

17	入選作品
----	------



ごあいさつ

公益財団法人モラロジー道德教育財団 理事長

ひろいけ
廣池 幹堂

モラロジー道德教育財団では、子どもたちが家族の大切さに気づき、豊かな心を育むことを目的として、毎年「家族のきずな」をテーマにしたエッセイ募集事業を実施しています。今年度も千葉県、柏市、松戸市、千葉県教育委員会、東葛六市の各教育委員会（柏、松戸、鎌ヶ谷、流山、我孫子、野田）ならびに柏市PTA連絡協議会、JCOMマーケティング株式会社よりご後援をいただき、二十三回目を迎えることができました。

本年も小学五年生を対象として、東葛六市の教育委員会によるご協力のもと、各小学校に募集を呼びかけましたところ、二十九校から千四百十二編のエッセイが寄せられました。本冊子には、その中から厳正なる審査によって選ばれた入賞十編と入選四十編を掲載しております。

多くの児童から寄せられたエッセイは、家族との心の交流や感謝の心、祖先を思う心、いのちのつな

がりの大切さなどが素直に表現されていて、どの作品も感動的なものばかりです。ご応募いただいた児童の皆様、ご指導や募集にご協力をいただいた各学校の先生方、ならびに原稿の審査にご尽力を賜りました選考委員の皆様、各団体、協賛企業をはじめとする関係各位に改めて感謝を申し上げます。

個人の多様性が重視され、人と社会との繋がりが薄れているのではないかと思う報道を目にすることもあります。いかなる時代におきましても教育の原点は家庭です。家族・親・祖先とのつながりを感じるとき、子どもたちは喜びと生きる力を得ることができます。このエッセイ募集事業と本冊子に掲載された心温まる作品が、少しでも「家族のきずな」を強め、家庭・学校・地域社会が一体となって子どもたちの豊かな心を育む機会の一助となりましたら、誠に幸いに存じます。

講評

選考委員長
柏市小中学校校長会 会長 福島紀和

「家族のきずなエッセイ」に柏市・松戸市・流山市・我孫子市・鎌ヶ谷市・野田市の小学校五年生から、今年は千四百十二編もの心がじんわりと温まる作品をお寄せいただきました。たくさんのご応募、誠にありがとうございました。

一枚一枚の原稿用紙からは子どもたちの真っ直ぐな想いが溢れ出ており、読み進める中で「家族とは何か」「絆とは何か」を私たち大人が改めて深く問いかけられました。と同時に読みながら愛おしく幸せな時間を過ごさせていただきました。

選考におきましては、何よりも作者本人の「素直な思い」を一番に尊重いたしました。普段は照れくさくて言えない家族への感謝の気持ちや、溢れるほどの愛情に気づいたエピソード、そして親や先祖から受け継がれた命のつながりに深く想いを馳せる姿には、何度も胸が熱くなりました。

社会や暮らしが大きく変化する今だからこそ、自らの言葉を選び、「文字」にして丁寧に想いを届ける営みは、かけがえのない宝物だと実感いたします。文章の行間からも伝わる温もりや、家族との体験を通して「次は自分が家族を支えたい」「これからこんなことを心がけていきたい」と前向きな目標を語る姿に、確かな成長を感じて頼もしく思いました。

ご応募くださったみなさん、本当にありがとうございました。今回心に灯した大切な気づきと感謝の想いを胸に、これからもご家族との「きずな」を優しく深め、心豊かに成長していけることを心より願っております。

最終選考委員

選考委員長	福島紀和	柏市小中学校校長会会長	柏市立柏中学校校長
副選考委員長	大久保俊輝	公益財団法人 モラロジー道德教育財団	学校教育センター 特任教授
選考委員	大賀 歩	柏市教育委員会	学校教育部 指導課 指導主事
	井原 滋	松戸市教育委員会	学校教育部 学習指導課 指導主事
	丸山 勤	JCOM マーケティング株式会社	東関東局 局長
	冬月 律	麗澤大学	経営学部 准教授
	川部 翔	麗澤中学・高等学校	教諭
	富田 裕之	公益財団法人 モラロジー道德教育財団	コンテンツ開発局 局長
	中澤 史隆	公益財団法人 モラロジー道德教育財団	広報部 部長



令和8年度 第23回「家族のきずな」エッセイ 入賞・入選作品一覧

千葉県知事賞 一致団結とありがとう	柏市立柏第七小学校 5年 こはら ゆう 也 小 原 侑 也
柏市長賞 おじいちゃんありがとう	柏市立柏第七小学校 5年 なか の はる ひ 陽 中 野 遥 陽
松戸市長賞 優しさの道へ	松戸市立東松戸小学校 5年 さ せ はる ま 真 佐 瀬 遥 真
柏市教育長賞 私のひいおばあちゃん	柏市立柏第一小学校 5年 お がわ しゅ か 佳 小 川 珠 佳
松戸市教育長賞 お母さんの手のぬくもり	松戸市立旭町小学校 5年 はやし りょう ま 真 林 遼 真
柏市小中学校校長会会長賞 はなれていても	柏市立柏第一小学校 5年 し みず わ かな 奏 清 水 和 奏
柏市PTA連絡協議会賞 お弁当の中のメッセージ	鎌ケ谷市立鎌ケ谷小学校 5年 さい とう まさ き 紀 齋 藤 雅 紀
ジェイコム賞 「おはよう」のパワー	流山市立長崎小学校 5年 ほし の げん 元 星 野 元
麗澤大学賞 ようち園最後のお弁当	鎌ケ谷市立鎌ケ谷小学校 5年 あお き なり み 珠 青 木 成 珠
モラロジー道德教育財団賞 おじいちゃんの彼岸花	柏市立光ケ丘小学校 5年 かわ べ さや か 禾 川 部 清 禾

入 選

★掲載順=氏名50音順

私の家族の大切な言葉	流山市立南流山第二小学校 5年	秋 山 璃 乃
新しい家族	流山市立長崎小学校 5年	浅 野 し ほ
尊敬できるお姉さん	鎌ケ谷市立中部小学校 5年	有 藤 市 華
元気で笑顔のおばあちゃん	松戸市立南部小学校 5年	飯 田 昌 俊

ぼくの大じいじの思い出	松戸市立南部小学校 5年	石 井 葵
僕の曾祖母	流山市立長崎小学校 5年	今 津 雅 輝
一人でカレー作り	柏市立柏第三小学校 5年	岩 本 胡 桃
家がつなぐ家族のきずな	柏市立中原小学校 5年	植 草 桃 佳
お母さんへの感謝	鎌ケ谷市立鎌ケ谷小学校 5年	小笠原 真 帆
笑顔のきずな	柏市立柏第七小学校 5年	岡 田 真 奈
心の中で生きつづける	鎌ケ谷市立鎌ケ谷小学校 5年	岡 本 智 紗
おばあちゃんの紫チャレンジ	鎌ケ谷市立鎌ケ谷小学校 5年	葛 西 晴 海
一台の掃除機がつかないだ家族のきずな	柏市立柏第一小学校 5年	片 岡 未 帆
ぼくのたからもの	柏市立中原小学校 5年	加 藤 大 輔
おばあちゃんの電話	松戸市立北部小学校 5年	加 藤 諒
二つのカーネーション	柏市立柏第三小学校 5年	栗 栖 実 花
妹の大切さ	松戸市立東松戸小学校 5年	小 泉 和 穂
そばにいてくれてうれしかったこと	松戸市立東松戸小学校 5年	小 松 幹 汰
そんけいするお父さん	柏市立中原小学校 5年	齋 藤 克 成
いつもの家、いつもの家族	柏市立中原小学校 5年	佐久間 央 実
入院生活で見つけたきずな	鎌ケ谷市立中部小学校 5年	寒風澤 美 優
ありがとう	流山市立南流山第二小学校 5年	三 田 結 萌
インフルエンザにかかっちゃったお母さん	松戸市立旭町小学校 5年	庄 子 千 佳
つながりの最先たん	柏市立光ケ丘小学校 5年	須 原 誓
やってみて知った、母の日常	柏市立土南部小学校 5年	高 梨 麗 美
正直に言うこと	流山市立長崎小学校 5年	高 橋 大 成
教えてくれた事	我孫子市立並木小学校 5年	田 山 華 子
ぼくの中のおじいちゃん	柏市立柏第一小学校 5年	塚 本 誉 希
祖父のそんけいできると思ったところ	鎌ケ谷市立鎌ケ谷小学校 5年	中 野 優 空
見て見ぬふりをしない	柏市立柏第三小学校 5年	長 峰 和 正
いつもありがとう	流山市立南流山第二小学校 5年	仁志出 遥
かつやくしたお父さん	〔 匿 名 〕	
特別な味の夜ご飯	鎌ケ谷市立鎌ケ谷小学校 5年	福 田 祐 希
わたしの弟	柏市立柏第三小学校 5年	藤 原 梨 衣
私の「名前」の由来	柏市立柏第一小学校 5年	前 場 未来歩
私が家族に伝えたいこと	柏市立柏第七小学校 5年	八 代 愛 来
「ありがとう」と「やめて」の言葉を伝えたい	流山市立長崎小学校 5年	山 崎 朝夏理
私と兄の二重とび練習	鎌ケ谷市立鎌ケ谷小学校 5年	山ノ井 杏
ありがとうお父さん、お母さん	鎌ケ谷市立鎌ケ谷小学校 5年	吉 田 友 樹
伝えられた「ありがとう」	柏市立中原小学校 5年	渡 部 有 紀

ご応募いただいた小学校

柏市（14校）

柏市立 柏第一小学校
柏第三小学校
光ヶ丘小学校
田中北小学校
土南部小学校
柏第七小学校
柏第八小学校
酒井根小学校
中原小学校
豊小学校
旭東小学校
風早北部小学校
手賀東小学校
高柳小学校

鎌ヶ谷市（2校）

鎌ヶ谷市立 鎌ヶ谷小学校
中部小学校

野田市（1校）

野田市立 東部小学校

流山市（2校）

流山市立 長崎小学校
南流山第二小学校

我孫子市（3校）

我孫子市立 布佐小学校
根戸小学校
並木小学校

松戸市（7校）

松戸市立 北部小学校
南部小学校
松ヶ丘小学校
柿木台小学校
古ヶ崎小学校
旭町小学校
東松戸小学校

エッセイ応募総数 1,412編 応募小学校総数 29校

最優秀賞作品

千葉県知事賞

一致団結とありがとう

柏市立柏第七小学校 五年

こはら
小原 侑也
ゆうや

一年前、山形に住む祖母が心ぞうの大手術をすることになった。とても大変な手術で母は祖母の元へ行き来しなければならず、家にはぼくと兄と弟、そして父の男四人だけで生活する日があつた。母がいない不安と祖母の心配、そして自分たちでやらなければならないという団結を感じた時だった。父は料理、ぼくは料理の手伝い、兄は風呂そうじ、弟は自分のことをちゃんと自分でやった。自分で家のことをやることで、母は毎日こんなふうになつてくれていたんだと改めて気づいた。だからぼくは毎日手伝いをしようと思った。男四人で協力した生活、母が山形から帰ってきたとき、

「いつもありがとう。」
と伝えた。

ぼくがいつも当たり前と思っていた生活は当たり前じゃないんだと感じた。これからも家族みんなで一致団結し、ありがとうという感謝の気持ちをわすれずに生活したい。

優秀賞作品

柏市長賞

おじいちゃんありがとう

柏市立柏第七小学校 五年

なかの
中野

はるひ
遥陽

私のおじいちゃんとおばあちゃんは、私の家の近くに住んでいます。私と弟が小さい時からお父さんとお母さんの仕事が忙しい時、お世話をしてくれています。

特におじいちゃんは、七小の通学路で見守り隊として約十年間、朝早くから私達を見守ってくれました。お母さんから聞くと、おじいちゃんは私が産まれてから、

「遥陽が小学生になった時に通学路で登校を見守りたい。」
と言つて見守り隊を引き受けたそうです。毎日居るおじいちゃんのおかげで友達も作れて地域の人たちとも繋がれました。

そんなおじいちゃんが、去年肺血栓で入院しました。おじいちゃんがいない通学路は少し暗く感じ、皆が心配してくれました。

でも、退院して家でがんばるおじいちゃんを見て、私もいつしよにリハビリをしたり、お手伝いをしたりして、今までお世話になった恩返しをしたいと思っています。

優秀賞作品

松戸市長賞

優しさの道へ

松戸市立東松戸小学校

五年

佐瀬 させ

遥真 はるま

ぼくは三さいの時、日本で年間五十人しかならない病気にかかり歩けなくなっていました。家族が心配してくれて大事にされているのだなあと心がほっこりした。

ある日、ぼくは退院をすることができた。しかし車いすに乗らなければいけなかった。ようち園にふつうに通いたいのに通ってはいけなかった。友だちと遊びたかった。そのことがぼくは悲しかった。でも、そのことを知った両親は、いっしょに部屋でダンボールの自動はんばい機を作ってくれたり、さらには車いすで水族館にもつれていってくれた。

これらの事がなかったら、ぼくは相当心にひびが入っていただろう。

ぼくにたくさんさんの気持ちや、優しさをくれたことに感謝をしている。この作文を書く事で「ありがとう」と伝えられる一步となった。

お父さん、お母さん、これからは、ぼくもつらい思いをしている人がいたら力になれる人になりたいです。

優秀賞作品

柏市教育長賞

私のひいおばあちゃん

柏市立柏第一小学校 五年 小川 珠佳 おがわ しゅか

私のひいおばあちゃんは、会いに行くと、いつもニコニコでむかえてくれました。

百歳をこえても、記憶力がしっかりしていたので、私たちの名前もしっかり呼んでくれていました。百歳になってもおけしゅうやおしゃれをしていました。ラベンダー色が好きで、スカーフやぼうし、カーディガンをコーディネートしていました。

ひいおばあちゃんは、大正生まれでひ孫が十九人、玄孫は三人います。大正、昭和、平成、令和を生きました。

母が、中学生の時、一度だけ戦争の話をしてくれたそうです。母は私にも、話をしてくれました。私がそれを聞き、ひいおばあちゃんが生きてくれたから、今の私があるんだと感じました。

百五歳まで生きたひいおばあちゃんは、毎日寝る前に、「今日もありがとう」と伝えてからベッドに入っていました。私もこの命を大切に未来へつなげていきたいと思います。

優秀賞作品

松戸市教育長賞

お母さんの手のぬくもり

松戸市立旭町小学校

五年

林 遼真 はやし りょうま

熱を出して学校を休んだ日、ぼくは布団の中にいた。頭が痛くて、部屋も暗くて少し怖かった。そんなとき、お母さんが部屋に入ってきた。お母さんは、「大丈夫だよ。」

と優しく声をかけてくれた。その時のお母さんの手は温かった。ぼくは、安心してぐっすり眠ることができた。

お母さんの手は、薬よりもぼくを元気にしてくれることがわかった。お母さんの手には言葉で「大好き」といわなくても、あの手の温かさで大切にされていることがちゃんと伝わってくる。ぼくは、お母さんの手のぬくもりが大好きだ。

ぼくもいつか家族を安心させられるような温かい手の人になりたいと思った。

優 秀 賞 作 品

柏市小中学校校長会会長賞

はなれていても

柏市立柏第一小学校 五年

清水 しみず

和奏 わかな

私のお父さんは単身赴任中で、家族とはなれた場所で生活しています。

私は今、お母さんとお兄ちゃんと妹とくらしていて、けんかもするけど四人でも楽しいです。だけどやっぱりお父さんが近くにいたらいいな、と思う事もあります。そんなときは、ビデオ電話で今日の出来事を報告します。

お父さんは家族の誕生日や記念日には必ず帰ってきてくれて、みんなでお祝いします。家族がそろって笑顔になれる最高の時間です。

お別れの時は心がギュットとさびしくなります。年長の妹はいつも泣いてしまいます。きつとお父さんも同じ気持ちです。

だけど私は思います。はなれている時間は家族のきずなを深めるチャンスです。決して当たり前ではない日常に感謝し、お父さんに会う度にランクアップした姿を見せられる自分でいたいです。

優秀賞作品

ジェイコム賞

「おはよう」のパワー

流山市立長崎小学校 五年 ほしの 星野 げん 元

ぼくは、祖父母と同じしき地に住んでいます。登校するぼくを元気な「おはよう」のあいさつで見送ってくれます。それが毎朝の楽しみで、げんかンを勢いよく飛び出します。

しかし、数か月前に祖母が体調をくずし、ぼくを見送ることができなくなっていました。毎日、あたり前だった朝のあいさつがなくなっていました。とても悲しい気持ちになりました。だから、ぼくは学校から帰ってきたら祖母の様子を確にんしに行くようになりました。最近では少しずつ体調が回復してきて、調子がよい時は朝に見送ってくれる日もあります。ぼくはそれがとてもうれしいです。そしてあいさつは人を明るく元気な気持ちにしてくれるものだと思ってきました。

今度は、ぼくが「おはよう」のパワーで祖母を元気にしたいです。

優秀賞作品

柏市PTA連絡協議会賞

お弁当の中のメッセージ

鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷小学校 五年

さいとう 齋藤

まさき 雅紀

ぼくにとって家族のきずなとは、毎日の当たり前の中にあるやさしさだ。夏休みの学童に行き始めてから、母は毎日朝早くに起きてお弁当を作ってくれている。ある日ぼくはささいなことでもけんかをし、ひどく落ち込んだ状態で学童へ行った。お弁当を食べる時間、気が重いままお弁当箱を開けると、そこにはのりで「がんばれ」と書かれていた。ぼくの暗い表情に気づいてくれた母が、言葉の代わりにエールを送ってくれたのだと分かった。一口食べると、じんわりと心が温かくなって、「午後からがんばろう」と思った。言葉で「大好き」と言い合うことはないけれど、お弁当箱という小さな箱の中に、我が家の確かなきずながつまっている。毎日の「ごちそうさま」の言葉に、これからはもっとたくさんの感謝をこめて伝えていきたい。

優秀賞作品

麗澤大学賞

ようち園最後のお弁当

鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷小学校

五年

青木 あおき

成珠 なりみ

ようち園の三年間。私はいつもあずかり保育で最後の方まで残っていた。お母さんは仕事で忙しく、いっしょにいられる時間は多くなかった。でも、お弁当だけは毎日手作りで、きれいで友達のと比べても自まんできるくらいだった。ふたを開けるたびにうれしかった。

最後のお弁当の日、いつものように開けると小さな手紙が入っていた。私は「三年間毎日お弁当を作ってくれてありがとう」と言いたいと思っていたのに、そこには「三年間食べてくれてありがとう。卒園おめでとう。」と書いてあった。むねがぎゅつとして、うれしくて、なみだがこぼれそうになった。遠足の日のこと、夕方のお迎えを待っていたお部屋、風邪もひかずかい勤賞だった三年間。色々な思い出が一気によみがえった。私は思わず、おむかえにきたお母さんに飛びついて、

「お弁当ありがとう。」

と言った。お母さんは少してれていたように見えた。その顔を見て、私はあらためて家族のきずなを感じた。

優 秀 賞 作 品

モラロジー道德教育財団賞

おじいちゃん彼岸花

柏市立光ヶ丘小学校 五年

かわべ 川部

さやか 清禾

私のおじいちゃんは、三年前の三月に病気で亡くなりました。おじいちゃんは絵を描くことやお花が好きでした。

おじいちゃんが亡くなって三回目の秋、今まで咲いたことがなかった彼岸花が、おばあちゃんちの庭に咲いていました。それも白い彼岸花でした。みんな植えた覚えがなかったので、もしかしたらおじいちゃんが亡くなる前に植えたのかもしれませんが。調べてみたら植えてすぐには咲かないこともあるみたいです。それでもおじいちゃんはお花になって会いにくるために植えたんだと思います。

おばあちゃんは、今年の春に庭のない家に引っこしました。だから私の家の庭に彼岸花を植え直しました。亡くなったあとも、ずっと私たちを見守ってくれているおじいちゃんに、これからお彼岸の時に会えるのが楽しみです。

入 選 作 品

私の家族の大切な言葉

流山市立南流山小学校

五年

あきやま
秋山

りの
璃乃

私の家族が大切にしている言葉は、「自分のやりたい夢に向かって一歩ずつあきらめずに歩んでいく」です。

でも私には、まだはっきりした夢がなく、すっきりしない気分で少し落ち込んでいたら、両親が、「今は色々なことをやって、自分は何が好きで何をやりたいのか、ゆっくり考えればいいよ。」と言ってくれました。

私は、勉強やバレエ、スポーツなど、好きなことがいっぱいあります。アメリカなど外国にもあこがれます。これから夢を見つけてあきらめずに進んでいこうと思います。

父母も、大人だけど夢はあるそうです。私の双子の兄も夢を探しています。家族みんな、自分の夢に向かって努力し、だれかがくじけそうになったらはげまし、力をかしてあげようと思います。

これから、夢を大切にできる家族でいたいです。

新しい家族

流山市立長崎小学校

五年

あさの
浅野

しほ

二〇一九年、十月二十五日。私はドキドキした。弟が産まれるとなったからだ。

お母さんは自然分べんという、いつ赤ちゃんが産まれてくるのかがわからないしゅっさんの方法だった。

お母さんがふんばっている中で、お父さんと自分でうちわであおいだり、おなかをさすってあげたりして、一時間くらいたった時について、弟が出てきた。

「初めての弟だ」と思い、すごくうれしかった。みんな無事で、弟は本当にかわいかった。泣いているだけで、でもその時は、なんでだろう？って思っていた。

弟が産まれたしゅんかんから、四人家族になりました。人が産まれる時ってこんなに、感動するんだなと思いました。

人生の中でこんなに、家族のきずなを感じること、あまりないと思うので、きちょうな体験でした。あの感動は、わすれられません。

入 選 作 品

尊敬できるお姉さん

鎌ヶ谷市立中部小学校 五年 有藤 ありふじ 市華 いちか

わたしには、中学生の姉がいます。この間小学校三年生の妹と姉がコンビニへゆうびんを出しに行った時の話です。

かぎが開いた音がして声をかけようとすると一緒に行った姉がおらず、妹だけが帰ってきました。

「お姉さんは、どうしたの。」

と聞くと、妹は、

「お姉ちゃんは、道でこまっていたおばあさんをおばあさんの知人の家まで送るから、先に帰っていいよ。」

と言ったそうです。外に出てみると、姉がちょうど、家に帰って来る所でした。

わたしなら、知らない人に声をかける時はいろいろな事を考えてしまい、ためらってしまいます。でも、姉は声をかけ、人助けできることがとても尊敬できました。そんな姉のような人になりたいです。

元気で笑顔のおばあちゃん

松戸市立南部小学校 五年 飯田 いいた 昌俊 まさとし

ぼくには、おばあちゃんがいます。おばあちゃんは、元気で笑顔が似合う八十四才です。おばあちゃんは、昔から近所づきあいが上手です。ひさしぶりに会った友だちに会うと、おばあちゃんも相手の方も自然とえがおになります。その様子を見るとこちらも笑顔になります。

しかし、そんなおばあちゃんですが、足が不自由です。そのため日々の生活を送るには、家族の手助けが必要です。ぼくは、お母さんといっしょに元気で笑顔があうおばあちゃんをとりもどすために、いっしょうけんめい手伝いをしています。特に車いすをおすことをがんばっています。そのため、だんさの上り方や、坂道の上り方をおばあちゃんのかいごを通して学ぶことができました。

元気で笑顔があうおばあちゃんをとりもどすために、これからも大切にしていきたいと思います。

ぼくの大じいじの思い出

松戸市立南部小学校 五年 いしい あおい 石井 葵

去年のじゅくの日、家族みんなで車でむかえに来ました。車に乗ったら、母に、「大じいじが亡くなったから、今から大じいじの所に行くよ。」

と言われて、びっくりしたのを覚えています。亡くなった大じいじは、ベッドで動かずねているみたいでした。けどみんな泣いていて、ぼくも自然と涙が出ました。一〇二才でした。少しこわかったです。

戦争では写真をとる部隊だったこと、八十才の時、父とロードバイクで八十キロ走ったこと、一〇〇才なのにだれよりも焼肉をいっぱい食べたこと、何十年も日記を書き続けていたこと。大じいじの思い出はいつもすごい事ばかりです。

大ばあばに会いに行くと、今でも大じいじがいつもすわっていたいすから、「おお、大きくなったな。」

と大じいじの声が聞こえてくる気がします。天国から見守ってくれているからだと思います。

僕の曾祖母

流山市立長崎小学校 五年 いまづ まさき 今津 雅輝

僕の家族は、父、母、姉、妹二人、弟、祖母、曾祖母の九人家族で住んでいます。そんな曾祖母のお話です。

僕の曾祖母は二年前から認知症になり、最近までしせつに入所していましたが、今年の五月に入ってから一緒に暮らすことになりました。帰ってきたときは顔が強張っており、何度も同じことを繰り返していました。認知症のことを詳しく知りたかったため母から話を聞きました。

認知症の人は、環境が変わると顔が強張ったり認知症が進んでしまう。だから否定的になったりイライラしないで優しく色々教えてあげてほしいと言われました。曾祖母は何度も同じことを繰り返し、名前を忘れたりして僕は進んでコミュニケーションをとるようにしました。

そしたら曾祖母も名前で呼んでくれるようになり曾祖母の笑顔が増えてこれからたくさん話かけ一緒に笑い合いたいと思いました。

入 選 作 品

一人でカレー作り

柏市立柏第三小学校 五年

岩本 いわもと

胡桃 くるみ

私のお父さんとお母さんは仕事で帰りがおそくなつてしまう時があります。その時は私がごはんを作っておきます。でも、私が作れるのはかんたんな料理だけなので、いつか一人でカレーを作りたいと思っていました。

私は、カレーを作る練習をお母さんといっしょにしました。何度か作って作り方を覚えてきたときに、お母さんとお父さんの帰りのおそくなる日がきました。私は、がんばっていいねにカレーを作りました。カレーができるころ、ちょうどお母さんが帰ってきました。お母さんはおどろいて、

「カレー作ってくれたの！すごい！ありがとう！いっしょに食べよう！」

と大よろこびしてくれたので、私もすごくうれしくなっていました。

家族がよろこんでくれたので、それからいろいろな料理にちょうせんしています。料理をする時は、家族のよろこぶ顔を想像します。これからも家族のためにがんばります。

家がつなぐ家族のきずな

柏市立中原小学校 五年

植草 うえくさ

桃佳 ももか

わたしの家は、一階におばあちゃんとおじいちゃんがいる、二階に両親と私と妹二人で住んでいる二世帯住たくです。わたしたちは元々別の所に住んでいましたが、小学校に入学した時に今の家に引っこしてきました。

今の家は、ひいおばあちゃんとお母さんが小さかった時の家族が住んでいたそうです。家の中の柱にはお母さんが子どもの時に計った身長印や小学生の時の賞状が古く茶色になったまま残っています。家の所どころに昔の生活が想像できて家族のつながりを感じます。

けれど、家は少し古いので、友だちのきれいな家に行くと、うらやましい時があります。でもやっぱり今の家がいいです。週末にみんなで食べる夕ご飯はとてにぎやかで楽しいです。わたしもこの家のつながりのひとつになれるのかな。そう思える日を楽しみにしています。

入 選 作 品

お母さんへの感謝

鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷小学校

五年

小笠原 おがさわら

真帆 まほ

家族は私にとって一番の宝物です。それを感じた出来事をしようかします。

私が小学四年生のとき、お母さんがうでをいためて家事ができなくなっていました。そこで私は洗濯物たたみや食事の用意をし、妹は食器洗いをしました。意外と大変でけっこう時間がかかりました。二人でやっても大変なので、いつも一人でやっているお母さんはすごいと思いました。しかも、それ以外にも仕事をしているので、うでがいたくなるのは当然だと思いました。

一週間後にお母さんのうでは治りました。けれども、またうでがいたくならないようにお手伝いは毎日やっています。それから、たまにかたたたきなどとしてあげます。

この出来事で、お母さんがどれだけ大変なことをやっているのかが分かったので、少しでも楽になるように、これからお手伝いやかたたたきを続けていきたいです。

笑顔のきずな

柏市立柏第七小学校

五年

岡田 おかだ

真奈 まな

私の家族は、父、母、四才の弟、自分の四大家族です。最近、弟とのきずなを感じた事がありました。それは、一緒に遊んでいる時や関わっている時です。弟はいつも私と遊びたがって明るい笑顔で話しかけてくれます。その表情を見ると、私が宿題中などいそがしい時や、学校でつかれていても、弟と関わりたいたいという気持ちになります。

この前、私が友達と公園で遊んで家に帰ってきた瞬間、弟が私を呼んで、

「おかえり、一緒に遊ぼう。」

と、とびかかるように笑顔で言ってくれました。それは学校から帰ってきた時も同じです。

自分を待っていてくれることは、当たり前ではなく、とても幸せなことなのだと気づきました。いつも私を笑顔にしてくれる家族に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、この四人のきずなを大切に、毎日を笑顔ですごしていきたいです。

入 選 作 品

心の中で生きつづける

鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷小学校

五年

岡本 おかもと

智紗 ちさ

一月二十八日、私の五才のたんじょう日に祖母が亡くなりました。私は、祖母のことが大好きだったので、亡くなってしまったことをしんじきれませんでした。私以上に祖母が亡くなってしまったことがしんじきれなかったのは、祖父でした。祖母がなくなってしまうから祖父は悲しみのあまり一人であらせなくなり、毎日のように私の家に泊まりに来ていました。

そんな祖父もいまではスポーツクラブに通ったり、友だちとお酒を飲みに行くほど元気になりました。しかし、祖母のことを忘れたわけではありません。

たとえば、祖母のたんじょう日や結こん記念日などの行事のときは、祖母の分のケーキなども用意しています。そんな祖父の姿を見て、人は亡くなってしまっても、家族や大切なひとの心の中でいきつづけるんだと思いました。

おばあちゃんの紫チャレンジ

鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷小学校

五年

葛西 かさい

晴海 はるみ

「ええっなんで。派手だねえ。」

おばあちゃんのかみの毛の色が紫色になっていた。急に紫色になったのでおどろいて大きな声をあげてしまった。

おばあちゃんに理由を聞くと、グレーにしようとしたがまちがえてロックスターのようなきれいな紫になったという。それを聞いたら家の中は大ばく笑になった。ぼくは、

「カッコいいじゃん。」

と言った。最初、おばあちゃんは落ち込んでいたが、みんなにほめられるとニコニコ笑っていた。

ぼくはこの出来事から家族のきずなについて考えた。おばあちゃんは失敗して、落ち込んでしまったけど、家族ならこれを笑い話に変えて、みんなで笑うことができる。これこそが家族のきずなのかなと思った。これからもおばあちゃんには、元気でオシャレで紫色のかみの毛みたいに明るくずっと長生きしてほしい。

入 選 作 品

一台の掃除機がつないだ家族のきずな

柏市立柏第一小学校 五年 片岡 かたおか 未帆 みほ

ある日、お母さんが忙しそうにしていたので、私は、

「今日は私が掃除機をかけるね。」
と言いました。

最初はテーブルやイスにぶつけてしまい、思うようにできませんでした。でも、お母さんに教えてもらいながら、最後までやり終えることができました。部屋がきれいになると、家の中まで明るくなったような気がしました。掃除が終わると、お母さんが、「きれいになったね、ありがとう。」

と笑顔で言ってくれました。その言葉を聞いて、私もうれしくなりました。

家事は部屋をきれいにするだけでなく、家族を助けたり、感謝の気持ちを伝えたりすることにもつながるのだと思いました。これから進んで掃除機をかけたり、お手伝いをして、家族みんなが気持ちよく過ごせる家になりたいです。

ぼくのたからもの

柏市立中原小学校 五年 加藤 かとう 大輔 だいすけ

ぼくの家族は、大切なたからものです。

生まれたときからかけがえのないそんざいです。

父と母はとてもやさしく、二さい上の姉と六さい下の弟に囲まれてくらしています。

毎日楽しくすごしていますが、けんかも毎日します。一番多いのは、弟とします。弟はいつもおもちゃを出しっぱなしで、「かたづけで」と言っても「いやだ」と、ごねてやりません。六さいも年下だから仕方ないと思うけれど、毎日はいやになります。いくらかわいい弟でも、自分のことは自分でやってほしくてイライラします。

でも最近は少しずつかたづけを覚えてきて、おもちゃ箱に入れられることも増えてきました。今まで何かをするときは姉といっしょだったのに、少しずつ弟ともできるようになってきました。

そんな小さな弟は今年で五さいになります。だんだん小学校が近づいてきました。いっしょにランドセルを背負うことはないけれど、そんな弟の成長が楽しみです。

入 選 作 品

おばあちゃんの電話

松戸市立北部小学校 五年 加藤 諒
かとう りょう

僕の父と母は、月曜日から水曜日は朝六時くらいから、仕事で家にいません。僕も早く起きたり、すぐ朝ごはんを食べたりと努力はしていますが、誰もいない家の中に一時間近く一人でいるのはさびしいです。

そんなとき、おばあちゃんがいつも電話をしてくれます。僕の家から二十五キロも離れた茨城県から、毎朝電話してくれるのです。

「もしもし、〇〇終わった？△△もやれるといいんじゃない？」

「〇〇は終わったよ。ありがとう。△△も少し進めたよ。」

「そう。じゃあ、今日もがんばってね。」

「うん、行ってきま〜す。」

時間にすれば三分もない短い電話ですが、ずっと一人でいるよりはとても心強いです。

毎朝、一日も欠かさずに電話してくれるおばあちゃんにいつも感謝しているし、とてもうれしいです。おばあちゃん今日も、

「行ってきま〜す。」

二つのカーネーション

柏市立柏第三小学校 五年 栗栖 実花
くりす みか

私のお母さんは、私が誕生日の日に必ず、手作りの手紙をくれます。どれもていねいにデコレーションされていて、毎年もらうのが楽しみです。そして、私もお母さんとお父さんの誕生日や結婚記念日などに、手紙をわたしています。お母さんほどキレイにはつくれません、気持ちを込めてつくっています。

そして、五月十日。私は、母の日なので、お母さんに、手作りのカーネーションを二つわたしました。手作りの方が気持ちが伝わると思ったからです。一つは濃いピンク色のカーネーション。もう一つは、うすいピンク色のカーネーションです。お母さんは、「わっ！ かわいい。ありがとう。」

と、鈴のように笑って喜んでくれました。その笑顔を見て私の心の中に、きれいなお花が二本、咲いた気がしました。

私はいつも笑っていて、やさしい、そんな家族が大好きです。

入 選 作 品

妹の大切さ

松戸市立東松戸小学校 五年 小泉 和穂
こいずみ なほ

私には、二人の妹がいます。一人は、三年生でいつもけんかばかりしています。もう一人は、三才でとってもかわいくて、いつも、「手をつないで。」

と言ってしまいうくらいです。

このあいだ、宿泊体験学習に行きました。その時に初めて妹たちとはなれてすごしました。私は、宿泊体験学習を楽しみにしていました。友だちとすごす時間は、新せんで笑顔がたえませんでした。ですが、友だちとすごす時間の中で気まずいことや氣をつかうことがありました。

家に帰った時三年生の妹が、

「お姉ちゃんがいなくてさびしかった。」

と言いました。まさか妹がそんなことを言うとは思わなかったので、うれしかったです。

妹とは毎日けんかをするけれど、友だちとは違って本音を言い合えるし、氣をつかうこともあります。そんな妹の存在が、私にとっては大切なんだと氣づくことができました。

そばにいてくれてうれしかったこと

松戸市立東松戸小学校 五年 小松 幹汰
こまつ かんた

ぼくは前に、いじめられたことがありました。とてもくやしく、なみだ目になりながら帰ってきました。そのときそばに、いてくれていたのがお母さんでした。

お母さんは、すぐに話をきいてくれました。話をするとお母さんは、

「そんなことがあったの、ひどいね。」

と言ってくれて、ぼくの心の中がとてもすっきりしました。

そのつぎの日、先生と相談し、ぶじにあやまってもらい、そのことはいつのまにかぼくの心の中からなくなっていました。

お母さんがいなかったら、ぼくは一生このことをかんがえながら生きていく人生だったかもしれない。このとき初めてぼくにとって、だれよりもそんけいできるお母さんがいることに氣がきました。このことをお母さんに話してよかったなと思います。また、なにかあったらすぐに相談しようと思います。

そんけいするお父さん

柏市立中原小学校 五年 齋藤 克成
さいとう かつなり

ぼくはお父さんをととてもそんけいしています。毎日たくさんさんの人の病気を治しています。おばあちゃんやおじいちゃんのこともお父さんが診ています。幼稚園のころはコロナが流行り始めて、お父さんはいつも帰りがとてもおそかったです。幼稚園のころのぼくは、なぜなのかがわからなかったので毎日すごくさみしかったです。

小学生になって父がその理由を話してくれました。コロナに苦しむ人をたくさんたすけていたのだと知り、さみしかった気持ちが、ほこらしい気持ちに変わりました。今は毎日いっしょに話せる時間があったとてもたのしいです。ぼくのワクチンちゅうしゃもお父さんがうってくれて、かぜやねつのときもお父さんが薬をくれるので、ぼくはとてもそんけいしています。

なので、ぼくはそんけいするお父さんのようにたくさんの人をたすけられるような人間になりたいと思います。お父さんをそんけいしています。

いつもの家、いつもの家族

柏市立中原小学校 五年 佐久間 央実
さくま おうみ

私は、家で家族とすごす時間が好きです。みんなでテレビを見たり、ご飯を食べたりするのは楽しいけど毎日一緒にいるとケンカもしてしまいます。ちよつとした言い合いや、自分の思い通りにいかなくてイライラしてしまう時もあります。

でも、ずっとそのままではありません。しばらくしてリビングに行くと、家族からふつうに「おやつ食べる?」とか「これ見て」と話しかけてくれます。さっきまで怒っていたのがバカバカしくなって気づくとまたみんなで笑っています。たまに言い過ぎて後悔することもあるけど、やっぱり最後はみんなで笑っていたいです。次にけんかしても私から「ごめんね」って言えるようになります。

私たちのきずなは、えい画みたいにごく深いわけではないけれど、ケンカをしてもいつのまにか元通りになっているところが一番の仲良しのしょうこかなって思います。これから、この「いつもの感じ」を大切にしていきたいです。

入 選 作 品

入院生活で見つけたきずな

鎌ヶ谷市立中部小学校 五年 寒風澤 さぶさわ 美優 みゆう

私は二年生のころ、急に頭が痛くなった。最初は普通の風邪だと思っていたが、普段とは違う痛みだったので病院に行った。検査をしてもらい脳出血と分かり入院することになった。

入院中は、いつも一緒にいる家族がいなくてこの先どうなってしまうのだろうと、不安な気持ちでいっぱいだった。そんな中、家族が毎日お見舞いに来てくれて、話をしたり一諸に絵を描いたりしてくれたので、少し安心することができた。

普段、家族とはなれて過ごすことはあまりなく、ずっと一緒にいる存在だと思っていたけど、ずっと一緒にいられることはあたりまえではないと思った。

私は、入院生活の中で家族の大切さをあらためて知ったので、家族と過ごす時間を大切にしようと思った。

ありがとう

流山市立南流山第二小学校 五年 三田 さんだ 結萌 ゆめ

私は、昔おじいちゃんが大好きでいっしょにトラップやオセロをしていました。その後おじいちゃんは体調をくずすことがふえました。だが、おじいちゃんは体調が悪くてねている時でも、私が泣いていると、私の所にきてくれてなぐさめてくれました。そして、おじいちゃんは病気になり入院しました。

そこから私はおじいちゃんにつめたくしてしまいました。おじいちゃんのおみまいに行った際は、おじいちゃんは手をにぎってくれたのにつめたい態度をとってしました。その後、おじいちゃんがなくなると聞きました。聞いた時は泣きたいのになぜか泣きませんでした。おじいちゃんは私のために、遊んでくれたり、ほしかった物をくれたりなどたくさんのことをしてくれたんだと気づきました。私はつめたくしたことをこうかいました。もう一度だけ会いたい。そして、最後にありがとうと伝えたいと思っています。

入選作品

インフルエンザにかかったお母さん

松戸市立旭町小学校 五年 庄子^{しょうじ} 千佳^{ちか}

「ちよつとインフルっぽいなあ。」

お母さんがぼそつと一人ごとを言った。

「だいじょうぶ？何か手伝うよ。」

と、お父さんは言ったけどお母さんは、

「だいじょうぶ、だいじょうぶ。」

としか言わないで、せんたくが終わったら二階に上がった。でも、少しお母さんはつらそうだったからみんなで家事をした。そしてあらためて、お母さんは一人でこんな大変な思いをしていたんだと思った。これからはもつと、お手つだいをして、お母さんのストレスをなくそうと思った。

今までは、お母さんだけが家事をすることが当たり前だと思っていたけれど、そんなことはない。いつもお母さんは、せんたく、料理、おふろそうじ、せんたくたみ、このような大変なことを何十回もしている。いつも、こんなに大変な思いをしてくれているんだ。大変で、つかれているときは、いつももたよってね。お母さん、いつもありがとう。

つながりの最先たん

柏市立光ヶ丘小学校 五年 須原^{すはら} 誓^{ちかう}

ぼくには、妹がいます。ある日、朝ごはんを食べていたら、きゆうに妹がいました。

「おじいちゃん、おばあちゃん、その前のおじいちゃん、おばあちゃん、ずっとつながってきて、一番新しいのは、私？」

お母さんが、

「うん、ともちゃんが最先たんだよ。」

と答えました。すると妹は

「じゃあ私に子どもが生まれたら、その子が最先たん？」

「そうだね。」

とお母さん。妹は、

「最先たんがいいからこのままにしようかな。」と言いました。

ぼくはそれを聞いて、つながりが終わってしまうのは悲しい気がしました。だから、

「ぼくは、けっこんしてつながるよ。終わったらいいやだもん。」

と言いました。妹はちよつと考えて

「じゃあ私もけっこんしてつなげる。」と答えました。

大きくなったら、ぼくも親のようにいのちをつなげたいと思います。

入選作品

やってみて知った、母の日常

柏市立南部小学校 五年 高梨^{たかなし} 麗美^{うみ}

「お母さん、大丈夫？」

私は横になっている母の手を握った。

先月、我が家に大きなピンチが訪れた。いつも笑顔で元気な母が、ひどい風邪を引いて寝込んでしまったのだ。

静かな家の中で、お父さんの呼びかけで、わたしたち家族はがっちり団結した。お父さんは温かい食事の準備、私は洗濯と部屋の掃除を一生懸命に担当した。

実際にやってみると想像以上に大変で、お母さんがどれだけ毎日家族に愛を注いでくれていたかがよくわかった。

みんなで心を込めてお粥を作り、寝ているお母さんの元へ運んだ。お母さんが、

「みんな、本当にありがとうね。」

と涙ぐんで言ってくれて「ああ、やってよかったなあ。」と心から思えました。

正直に言おう

流山市立長崎小学校 五年 高橋^{たかはし} 大成^{たいせい}

小学四年のときのことだ。

漢字まとめテストがあった。合かくラインは九十点だ。がんばって練習したからきつと大丈夫だ。そう思ってテストに取り組んだ。

そして、二日後、テストが返される日が来た。

「やった！」

結果は九十点、セーフだった。家にかえるとママにテストの結果を聞かれた。九十点だったことを伝えると、

「やったじゃん。」

とほめてもらえた。そしてテストを渡した。

「ねえ、ここまちがってるよ。」

「えっ…。」

正直に言わないとだめだと言われた。

でも…。色々考えて先生に言うことにした。

「先生、ここまちがってました。」

「本当だ。よく正直に言えたね。」

と言われてうれしかった。

再テストの結果は百点だった。

「えらいね。」

とママに言われた。

教えてくれた事

我孫子市立並木小学校 五年 田山 たやま 華子 かこ

わたしには、今はもう亡くなってしまったおばあちゃんがいきました。おばあちゃんが教えてくれたことがあります。

教えてくれたことは、たくさんあります。たくさんの中から一番わからない事を私に教えてくれました。それは、

「怒られれば怒られるほど、その怒っている人に愛されているんだよ。」

と、ということでした。その意味は、昔の私には、よく分かりませんでした。でも今は、怒りは教え、教えは愛、全員が教えてくれるわけではない、怒ってくれる人を、大切にすること、ということが分かりました。おばあちゃんは私に大切なことを、いろいろ教えてくれたんだと思いました。

けれど、わたしはおばあちゃんにイヤな思いをさせてしまったことがあります。その自分を、私は後かいています。でも、おばあちゃんは、イヤな思いをさせたのにわたしのことを愛してくれたんだと、思っています。おばあちゃんにありがとう、もう一度伝えたいです。

僕の中のおじいちゃん

柏市立柏第一小学校 五年 塚本 つかもと 誉希 ほまれ

ぼくの家には、おじいちゃんのお仏壇があります。いつもぼくかお姉ちゃんがおじいちゃんにご飯をお供えしています。その時にお話をしたり、お願い事をしたりすることもあります。ぼくはおじいちゃんに会ったことはないけれど、さみしくはありません。おばあちゃんやお母さんから話を聞くと、その瞬間会った気分になれるからです。

ぼくとおじいちゃんは、似ているところがあるそうです。似ているところの一つ目は、おへそです。丸い形が似ているそうです。二つ目は、ペンの持ち方や勉強をしている顔がたまに家で仕事をしているおじいちゃんの姿に似ているそうです。三つ目は、家族で話をしている時によく笑うところです。ぼくとおじいちゃんの似ているところを見つけると、お母さんがうれしそうに教えてくれます。おじいちゃんに会っているように感じているお母さんがうれしそうなので、ぼくもうれしいです。

入 選 作 品

祖父のそんけいぶちを思ったように

鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷小学校

五年

なかの 中野

ゆうと 優空

ぼくの祖父は器用で物知りです。

ぼくは毎年夏休みに祖父母の住む福岡市へ行きます。祖父母の家の近くには山や海があり普段経験できない事がたくさん経験できます。

去年は祖父が竹を用意してくれ、祖父母宅の庭でそうめん流しをしました。竹を縦に割り、節を取ります。ぼくは竹の節を削る事に苦労しましたが、祖父はすいすいと削っていました。茹でたそうめんの硬さは絶妙で、流れてきたそうめんをおいしく食べました。

また、海に魚釣りに行った時は、天気、気温、場所、波の高さ、風の向き、エサの種類を考えることを教えてくれました。釣ってきた魚は天ぷらにしてくれ、家族皆でおいしく食べました。

毎年夏休みに、器用で物知りの祖父は色々な経験をさせてくれます。これからたくさん事を学んで家族の役に立ち、助け合って行きたいです。

見て見ぬふりをしない

柏市立柏第三小学校

五年

ながみね 長峰

かずまさ 和正

ぼくが母を見ていて学んだことは、困っている人がいたら見て見ぬふりをしないということです。

最初に覚えていることは、長い坂道を上がれなくて困っていた車いすの人を助けていたことです。坂道の中で動けなくなっていたのに、たくさんの方がちらっと見て通りすぎていきました。母はぼく達を坂の下に待たせて車いすの人と何か話して坂の上までおしていきました。

また、道ばたの支柱の上にお財布が置かれていることがありました。下に落ちていたのを誰かが上に置いたみたいでした。それを母は交番が遠いのに届けに行きました。落とした人が探しに来るかもしれないので届けるのを迷ったのですが、クレジットカードなどが入っていたので届けて正解だったそうです。

このように、ぼくも見て見ぬふりをしないで困っている人を助けたいです。

入 選 作 品

いつもありがとう

流山市立流山第二小学校 五年

にしで
仁志出 遥 はるか

お母さんやお父さんは、仕事でつかれているはずなのにいつもごはんを作ってくれたり、せんとく物をたたんでくれたりしてくれる。どんなに帰るのがおそくてもだ。でもわたしは、そんなお母さんやお父さんに、たった一言の「ありがとう」が言えない。だからわたしは、言葉のかわりに行動でしめした。そしたら、

「ありがとう。」

と言われた。お母さんとお父さんの方がすごいのだ。

次の日はわたしが言おうとしたけれど、てれくさくていえない。だから手紙に「いつもありがとう」と一言書いてわたしなら、また、

「ありがとう。」

と言われた。

わたしは、そんなお母さんお父さんみたいな感謝が自然に言えるようになりたい。

かつやくしたお父さん

〔匿名〕

私の家族は、けい察官のお父さんと、しっかり者のお母さんと、たよりないけどやさしい三才上のお兄ちゃんの四人家族です。

家族で出かけることが好きで、よくドライブや旅行に行きます。

今年の春休みは箱根に行きました。山道を車で走っていると、バイクと車の事故があった直後だったようで、バイクに乗っていた人が道の真ん中におれていました。するとお父さんがすぐにかけつけ、通りがかったツーリング中の人達といっしょに救助や一一九番、交通整理などをテキパキとしていました。

家にいるお父さんは、いつもその辺でねていたり、ダラダラしていることが多いので、初めてけい察官らしいすがたを見て、少しそんけいしました。

これから、こまっっている人によりそって助けてあげられる、たのもしいきいけい察官、そしてお父さんでいてほしいと思います。

特別な味の夜ご飯

鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷小学校 五年

福田 ふくだ

祐希 ゆうき

ぼくは、コロッケが苦手でした。お父さんや妹、お母さん、家族全員コロッケが好きです。しかし、何回食べてもあのやわらかいじゃがいもが食べられません。コロッケが夕飯にできてくても食べられず、少し申し訳ないとも思っていました。

ある日、夕飯にコロッケが出てきました。その日のコロッケは、いつもとちがって、じゃがいもがやわらかすぎず、かたすぎでもなく僕でも食べられるコロッケでした。ぼくは驚きました。

「いつものコロッケとちがう。」

そう言うとお母さんが優しく、

「祐希でも食べられるように調節したんだ。」

と言いました。僕のために…そう思いました。

その日から僕は、コロッケが好きになりました。夕食にコロッケをリクエストするようになりました。お母さんはいつも僕でも食べられる特別な味の夕飯を作ってくれます。毎日何の料理が出るのか僕は楽しみにしています。今日は何の料理かな。

わたしの弟

柏市立柏第三小学校 五年

藤原 ふじわら

梨衣 りい

わたしの弟は、今年の四月で小学一年生になりました。毎朝いっしょに学校へ行くし、帰りもいっしょです。今はなかよしだけど、弟が小さい時はちよつときらいでした。なぜなら、まわりの人がみんな弟のことばかりをかわいいと言い、だっこしたりプレゼントしたりたくさんかわいがるからです。わたしもいるのにみんな弟ばかりみていて、わたしはひとりぼっちになった気がしてすごくかなしい気持ちになりました。でも、弟は、

「ねえね、ねえねあのね…。」

とたくさん話しかけてきて、いっしょにあそぶと楽しいです。おかしもはんぶんくれるやさしいところもあります。弟がかぜをひくと家の中がしずかになるので心配になります。でも元気になって弟に笑顔がもどるとうれしいです。わたしはやっぱ弟のことが大好きなんだと思いました。大きくなってもしっかり姉弟でいたいです。これを書き終わったら弟にぎゅってしにいこうと思います。

私の「名前」の由来

柏市立柏第一小学校 五年 前場 まえば 未来歩 みきほ

私は、小学一年生のころに自分の名前が嫌で仕方がありませんでした。みんなからは良い名前と言われたけれど、しつくりこずにいたとき親に聞くことにしました。

「なんで私の名前は未来歩なの？」
するとお母さんが、

「未来に向かって自分の足で歩けるようになって意味だよ。最初は手伝ってもらってもいいから最終的に自分で歩けるようにってね。」
と答えました。

その言葉を聞いてから新たなことにたくさんチャレンジしました。特に学校での二年連続学級委員や今の児童会役員での活動は、自分の足でたどりついた場所だと考えています。この場所にたどりついたことで、人をまとめるという才能が開花しました。

これから自分の名前を大切に、ほこりをもって苦難をのりこえていきたいと思いました。

私が家族に伝えたいこと

柏市立柏第七小学校 五年 八代 やしろ 愛来 あいら

私は、日ごろからママとパパに「ありがとう」と伝えたいことがあります。

一つ目は、私は三つ習い事をしていて週に五回ぐらい送り迎えをしてもらっています。ママとパパはいつもいそがしい中、車で送り迎えをしてくれます。二つ目は、ダンスの発表会やイベントでおどっているときに目一杯応援をしてくれます。応援の声が聞こえるとてもうれしいです。私が笑顔で元気よくおどれたときは、いつも終わったあとにはめてくれます。

今までずっと学校に通ったり、毎日ご飯を食べたり、習い事を続けていけるのはママとパパのおかげだと思っています。いつもは声に出して伝えていないけれど「本当にありがとう」と伝えたいです。私のやりたいことを全力で応援してくれているので、これからもがんばりたいと思います。もう五年生なので、お家のお手伝いもたくさんして、いつものお礼ができたらいいなと思っています。

入 選 作 品

「ありがとう」と「やめて」の言葉を伝えたい

流山市立長崎小学校

五年

山崎 やまざき

朝夏理 あかり

私は最近、ずいぶん前なのにいじめを思い出すことがあります。トラウマになってねむれない日もありました。私はいじめをずっと受けていて「やめて」ということができませんでした。そんな時にたよりになった両親との思い出です。

一年生のころから男女問わず何人もの人からいじめられていた。それが何年も続いた。いつ自分が壊れてもおかしくないくらい傷つけられた。心がなくなっただんじゃないかってぐらいがまんしちゃっていた。私は今までのことを両親に話した。ちゃんと話を聞いてくれてうれしかった。私が今笑顔でいられるのは、私を支えてくれた両親のおかげだと思う。

今まで私と人生を歩んできた両親に人生でかぞえきれないほどの「ありがとう」を伝えたい。他にも相談にのってくれた先生、泣いていた自分をなぐさめてくれた親友、私を笑顔にしてくれた周りの人たちにも「ありがとう。」

私と兄の二重とび練習

鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷小学校

五年

山ノ井 やまのい

杏 あん

私が二重とびをとべるようになったのは、二年生の時兄といっしょに練習したからです。最初は、とんだ後にしゃがんでしまっただけで一回しかとべませんでした。一人で練習していたら三回くらいとべるようになったけど、まだ兄のようにスムーズにとべませんでした。それを見ていた兄が、おもちゃの黒板にコツを書いて先生のように教えてくれました。

「わきをしめて、つま先でとぶ」とアドバイスしてくれました。そして「達成カード」も作ってくれました。達成カードは、一回とべるごとにスタンプをおしてもらえて、目標四十回をめざすカードです。兄といっしょに練習を続けたら、ついに念願の四十回とぶことができました。目標を達成した時、私はとてもうれしかったです。兄も、

「すごいーすごい！」

とほめてくれました。

これは私と兄の大切な思い出で、「達成カード」は私の大切な物です。

入 選 作 品

ありがとうお父さん、お母さん

鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷小学校

五年

よしだ 吉田

ともき 友樹

ぼくは三年生のときに学校でいじめをされたことがあった。その日は家族にとって大切な日で、とても楽しみにしていた。

いじめにあった日はお母さんの誕生日だった。ぼくは家で大泣きして、お父さんに電話し、いじめのことをすべて話した。その時お父さんはお母さんとケーキを買って帰って来ると中だったらしく、心配して急いで帰ってきてくれた。お父さんとお母さんが帰ってくると、三人でだしめあった。

お母さんは、

「大丈夫？辛かったね。」

お父さんは、

「泣かなくていいよ。お父さんとお母さんはいつも友樹の味方だからね。」

お父さんとお母さんの言葉にぼくはうなずいた。

ぼくは家族のみんながとても大好きだ。自分を守ってくれた最高の家族を次はぼくが守ろうと心に誓った。

伝えられた「ありがとう」

柏市立中原小学校

五年

わたなべ 渡部

ゆき 有紀

去年、初めてのバスケットボール大会でとく点を入れた時にすごくよろこんでくれてありがとう。その時は、

「有紀、すごいじゃん!!初めての大会なのに。」

とお父さんとお母さんがほめてくれたけど、私は「ありがとう」も言えずに笑って終わってしまった。

弟も、

「有紀みたいになりたいな。」

と言ってくれてうれしかったが、また「ありがとう」を言えずに笑って終わってしまった。その後も同じようなことをしてしまい、もやもやしていた。

ついに今年の大会になり、とく点を入れると家族がほめてくれた。私は今までに伝えられなかった「ありがとう!!次もがんばるね。」

と言うことができたのだ。言えた時は心の中にあつたもやもやが、体からぬけていく気がした。

私はがんばった時にほめてくれて、次もがんばろうと思える家族が大好きだ。

令和9年度

募集要項

応募資格

令和9年度、東葛6市（柏・我孫子・鎌ヶ谷・流山・野田・松戸）の小学校に通う5年生

応募方法

- 400字詰め原稿用紙1枚以内。
- 応募用紙は令和9年4月頃各小学校へ配布します。学校ごとに取りまとめご応募ください。（裏面が原稿用紙になっています）

応募期間

令和9年4月1日(木)～7月20日(月)頃を予定

賞

千葉県知事賞・柏市長賞・松戸市長賞・柏市教育長賞・松戸市教育長賞・柏市小中学校校長会会長賞・柏市PTA連絡協議会賞・ジェイコム賞・麗澤大学賞・モラロジー道德教育財団賞

入賞 10作品

入選 40作品

発表・表彰

- 入賞・入選作品の発表と表彰式を行います。（10月下旬を予定）
- 入賞・入選作品は主催者発行の「エッセイ集」並びにホームページに掲載させていただきます。また、協賛企業にて作品のパネル展示を行います。

「家族のきずな」エッセイ集

令和8年10月24日発行(非売品)

発行 公益財団法人

モラロジー道德教育財団

〒277-8654 千葉県柏市光ヶ丘2丁目1番1号

☎04-7173-3111(代)

<https://www.moralogy.jp/>

主催者の許可なく転載を禁止します。 3500



「家族のきずな」エッセイ集



【協賛企業・団体】

敬称略

青木建設(株)
家の光製本梱包(株)
(株)岩田印刷
鵜川興業(株)
SMBC日興証券(株)
(株)エヌ・ワイ・ピー
エミタスタクシー柏(株)
柏モラロジー事務所
鎌ヶ谷モラロジー地区連絡所
(株)コミニケ出版
サンケイ総合印刷(株)
シナノ印刷(株)
すみ建具店 鷺見重光
精文堂印刷(株)

ダイアナえがお 大久保聖子
(株)太平印刷社
武田建装(株)
千葉県モラロジー協議会
東武バスセントラル(株)
流山モラロジー事務所
(株)花屋
廣池学園モラロジー事務所
(有)廣瀬造園
(有)丸勝電気
松戸モラロジー事務所
横山印刷(株)
(株)れいたくサービス
(株)山屋食品 千葉

三井不動産商業マネジメント(株)
(ららぽーと柏の葉)
住商アーバン開発(株)
(テラスモール 松戸)
イオンモール(株) 柏店
うどん市南柏店

(株)クリエイトリック
(セブンパークアリオ 柏)
(株)南関東カンパニー
(イオン鎌ヶ谷店)
リフレッシュプラザ 柏

柏市民新聞社
東葛毎日新聞社

JCOMマーケティング(株)
千葉東関東局

このエッセイ集は皆様からのご寄付を活用して作成しています。
本事業に賛同いただける方は右のHPよりご寄付願います。

